

令和5年度 社会福祉法人岐協福祉会 事業報告

【概要】

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が「5類」に位置付けられたことで、行動制限がなくなり、社会・経済活動もほぼコロナ過以前に戻ってきました。

本法人といたしましては、引き続き感染症対策の徹底を図り、3つの重点事業を掲げ、地域に信頼される総合福祉施設をめざし各種事業を実施いたしました。

第1に、それぞれの介護サービス事業において、入所率・利用率を高めるとともに、効率的なサービスの提供に努め安定した経営を目指しました。

第2に、新型コロナウイルスをはじめとする感染症対策として、引き続き基本的な感染症対策の徹底に努めてまいりましたが、大洞岐協苑において2回のクラスター期間が生じることとなりました。

第3に、職員が安心して希望をもって働くことができる職場環境づくりに努め、研修等を通じて優秀な人材の育成、確保に努力いたしました。

また、当法人が平成5年5月に最初に建設した「特別養護老人ホーム大洞岐協苑」の事業開始から30年を迎えたため、「大洞岐協苑30周年記念誌」を500部作製し、入所者家族その他関係機関等に送付しました。

こうした重点事業を中心に各種事業を積極的に取り組むことにより、岐協福祉会の理念に基づき、柔軟に対応できる自律した経営と質の高いサービスが提供できるよう努めました。

【1】 法人本部事業

1 理事会等の開催

社会福祉法に準拠し、経営組織のガバナンスの強化を図るとともに、介護保険事業の経営の安定化をめざし、次のとおり、理事会・監事会・評議員会等を開催しました。

(1)理事会

第1回 令和5年6月8日(木)

- ・令和4年度社会福祉法人岐協福祉会事業報告について
- ・令和4年度社会福祉法人岐協福祉会決算報告並びに監査報告について
- ・次期役員候補者の推薦について
- ・次期評議員選任解任委員会委員の選任について
- ・社会福祉法人岐協福祉会就業規則の一部改正について
- ・社会福祉法人岐協福祉会パートタイム職員就業規則の一部改正について
- ・社会福祉法人岐協福祉会職員給与規程の一部改正について
- ・定時評議員会の招集について

第2回 令和5年6月27日(火)

- ・理事長の選任について

第3回 令和5年11月9日(火)

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和5年度社会福祉法人岐協福社会資金収支補正予算について
- ・社会福祉法人岐協福社会パートタイム職員就業規則の一部改正について

第4回 令和6年3月27日(水)

- ・理事長の職務執行状況について
- ・令和5年度社会福祉法人岐協福社会資金収支補正予算案について
- ・社会福祉法人岐協福社会就業規則の一部改正について
- ・社会福祉法人岐協福社会職員給与規程の一部改正について
- ・社会福祉法人岐協福社会職員給与規程細則の一部改正について
- ・社会福祉法人岐協福社会パートタイム職員就業規則の一部改正について
- ・令和6年度社会福祉法人岐協福社会事業計画案について
- ・令和6年度社会福祉法人岐協福社会資金収支予算案について

(2) 監事会

第1回 令和5年5月30日(火)

- ・令和4年度社会福祉法人岐協福社会事業報告について
- ・令和4年度社会福祉法人岐協福社会決算報告について

(3) 評議員会

定時評議員会 令和5年6月27日(火)

- ・令和4年度社会福祉法人岐協福社会事業報告について
- ・令和4年度社会福祉法人岐協福社会決算報告並びに監査報告について
- ・理事及び監事の選任について

2 会議・委員会等の開催

事業の適正化と事業所間の連携強化のため、次の会議・委員会を開催しました。

(1) 事業責任者会議 毎月開催

理事長出席のもと事業実績、経営状況を確認、懸案事項の検討のため協議を行いました。

(2) 広報委員会 年4回開催

広報誌「ほほえみ」を作成・編集し、年2回(第81号、第82号)を発行しました。

(3) 安全衛生委員会 毎月開催

事故報告、ヒヤリハットの分析により、労働災害の事故、交通事故予防の検討を行いました。

3 介護保険事業等の経営

それぞれのサービス事業において、利用者の心身の状況に応じ、適正な個別サービスの提供に努め、さらなる生活の質の向上を図り「愛情と理解」をもって満足される質の高いサービスの提供に努めました。

介護職員への処遇改善として、「介護職員処遇改善加算」、「介護職員等特定処遇改善

加算」、「介護職員等ベースアップ等支援加算」を活用し、手当の改善など賃金の向上に努めました。

4 非常災害対策

大洞岐協苑及び第2大洞岐協苑 地域の福祉避難所役割に備え、入所者、地域からの避難者の方が3日間維持できる飲料水、非常食の備蓄をしました。

5 職員の健康管理

職員の健康の保持増進を図るとともに疾病の早期発見及びメンタルヘルスの向上に努めるため、定期健康診断 ストレスチェック等を行いました。

6 岐阜市から実地指導

岐阜市地域包括支援センター 東部

令和5年12月12日(火) 指摘事項 特になし

岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター

令和5年12月27日(水) 指摘事項 特になし

日野岐協苑

令和6年2月1日(木) 指摘事項 水害関連の避難訓練の実施について

7 職員の資質向上への取り組み

介護職員等の資質の向上を図るため、感染予防に留意し必要な研修を開催しました。

(1) 苑内研修(職員が企画し講師を担当)

| 実施日 | 研修テーマ | 計 |
|------------|--------------------|-----|
| 4/18、20、21 | 新人職員研修 | 23名 |
| 4/26 | 法人理念、令和5年度 事業所の目標 | 40名 |
| 5/31 | 食中毒・感染症予防とシュミレーション | 64名 |
| 6/28 | 事故防止・リスクマネジメント | 56名 |
| 7/26 | 虐待防止について | 43名 |
| 8/30 | 身体拘束防止について | 31名 |
| 9/27 | 認知症サポーター研修 | 14名 |
| 10/25 | 感染症・食中毒について | 41名 |
| 12/27 | BCP事業継続計画について | 30名 |
| 3/27 | 看取り実践報告 | 31名 |

(2) スキルアップ研修(外部の研修機関「マイハート」より講師を派遣し実施)

| 実施日 | 研修テーマ | 計 |
|------------|---------------|-----|
| 6/15、7/13 | 接遇 魅力ある言葉と記録 | 51名 |
| 8/10、9/14 | 職場のハラスメント防止 | 50名 |
| 10/13、11/9 | 虐待防止・身体拘束防止 | 43名 |
| 12/14、1/11 | 看取り ACP への関わり | 58名 |

| | | |
|----------|-----------|-----|
| 2/8、3/14 | 事故防止・転倒予防 | 42名 |
|----------|-----------|-----|

(3) 管理職及び主任・係長研修

職位職責に基づき、全国老施協の実施する「介護人材定着研修」を用いて開催しました。管理職5名、主任・係長は17名が参加しました。

(4) 救急救命講習

岐阜市中消防署東分署による救命講習を10回開催し、計127名が受講しました。

(5) 資格取得勉強会

介護福祉士勉強会は12月から1月にかけて4回開催しました。介護福祉士は9名が合格しました。

【2】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑事業(定員100人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概要】

令和3年4月に100床へと増床し3年目を終わりました。

コロナウイルス感染症が5類へと移行された5月以降も感染予防対策に留意しながら、できる限り季節を感じられるよう余暇活動の支援や面会、外出支援に努めた1年となりました。しかしながら、年間で13名がコロナウイルスに感染しました。

10月には利用者の骨折を伴う重大事故が発生し、再発防止への対応の一つとして「利用者を守る安全な移乗」の研修を全てのスタッフに行うことで介護力の向上に努めました。

利用状況実績(過去5年間)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 新規入所者数 | 53 | 41 | 54 | 37 | 20 |
| 退所者数 | 44 | 41 | 46 | 34 | 29 |
| 平均要介護度 | 3.70 | 3.80 | 3.54 | 3.88 | 3.85 |
| 利用率(%) | 83.2 | 89.4 | 79.8 | 82.4 | 75.6 |

1 重点目標に対する取組み

(1)「スムーズな入退所管理を行い、利用者のADL維持・向上に努め利用率85%をめざします。」

・待機者名簿により適正に入所案内を行いました。しかし、感染症の発生やスタッフ不足により新規入所案内を縮小した結果、利用率は75.6%と目標を大幅に下回りました。

(2)「災害(地震・火災・感染症を含む)に強い施設運営を目指し、利用者の安全を守ることができるよう、危機管理対策に取り組みます。」

・感染症流行期には、新規入所者及び職員に対して予防的抗原検査(岐阜市主催)を週2回実施し、感染症の早期発見及びウイルスの持ち込み防止に努めました。

・年2回の防災訓練及び苑内研修においてBCP(事業継続計画)の概要を周知しました。また、感染シュミレーションや訓練にて、非常時の資機の設置方法や保管場所について

て確認を行いました。

(3)「介護に関する専門的知識や技術を向上させ、利用者の QOL の維持・向上を図ります。」

- ・介護職員からの意見をもとに、介護力向上勉強を月に2回ずつ開催しました。特に重大事故発生後には「利用者様を守る、安全な移乗」と介護技術向上に努めました。

2 施設サービス計画の実施状況

- ・利用者及び家族の生活に対する意向の実現のため、ケアマネジャーの原案をもとに QOL(生活の質)の向上を目指した多職種によるカンファレンスを行い、ケアプランを作成、実施しました。

3 介護サービスの実施状況

- ・個別のケアプランに基づき、利用者及び家族の意向に沿ったケアに努めました。また、感染対策に留意し外出行事や外部ボランティアやオンラインによる行事も積極的に実施しました。

4 機能訓練の実施状況

- ・機能訓練指導員をはじめとする多職種が協働して利用者ごとに機能訓練計画書を作成し、リハビリを実施しました。

5 食事サービスの実施状況

- ・入所者の栄養状態等を把握し、8月からは栄養ケアマネジメント強化加算を算定し、管理栄養士が中心となり、多職種が連携して栄養ケア計画を作成しました。
- ・季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食及びバイキング食を6回（4月・6月・7月・10月・11月・3月）提供しました。

6 看護サービスの実施状況

感染予防対策として、毎日2回の検温及び施設内の消毒・換気を行いました。

また、流行期においては職員を対象とした週2回の抗原検査(岐阜市主催)を実施し、ウイルスの持ち込み防止に努めました。

| 実施日 | 内容 | 人数 | 備考 |
|-------|---------------|-----|----------|
| 6/28 | 健康診断 | 63名 | 胸部 X 線など |
| 8/3 | 新型コロナウイルス予防接種 | 65名 | |
| 11/15 | インフルエンザ予防接種 | 86名 | |
| 11/27 | 新型コロナウイルス予防接種 | 61名 | |

7 看取り介護の実施について

看取り介護の実施はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議等

事業運営体制の充実と職員間の連携、更には介護の質向上を目的として、会議及び委員会活動を実施しました。

| 会議名 | 開催回数 | 備考 |
|---------------------------|------|--------------|
| 特養会議 | 10回 | 7月・2月は書面のみ |
| 介護職員会議 | 11回 | 7月は中止 |
| 給食委員会(第2と合同) | 10回 | 5・7月は書面 |
| 介護力向上委員会 | 11回 | 5は書面 |
| 入所判定委員会 | 9回 | 6月・7月・11月は中止 |
| 事故・身体拘束・虐待防止・ 感染症対策委員会 | 11回 | 7月は中止 |
| 入所者懇談会 | 2回 | 5月・9月 |
| 安全対策部門 | 2回 | 10月・11月 |

(2) 研修

介護職員等の資質の向上を図るため、感染予防対策に留意し必要な研修への参加を行いました。

・外部研修

令和5年度も外部研修は主にオンライン開催であったため、受講環境を整えて参加しました。感染対応研修をはじめ、介護職員実務者研修や実習指導者講習会など、専門職として必要な研修に計10名が参加しました。

(3) 勉強会

介護力の向上を図るため、勉強会を開催しました。

| 実施日 | 研修テーマ | 人数 |
|-----------------------|----------------|-----|
| 9/25、10/25 | 正しいオムツの当て方 | 24名 |
| 12/22 | カトレア(特殊浴槽)の使い方 | 9名 |
| 12/15、12/25 | 救急対応について | 13名 |
| 11/13、12/22 | 食事介助の方法について | 14名 |
| 12/12、12/18、1/22、3/11 | 利用者様を守る安全な移乗 | 31名 |

9 岐阜市高齢者等緊急一時保護事業について

令和5年度は受入の依頼はありませんでした。

10 その他

(1) 非常災害対策

利用者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。

| 実施日 | 内容 | 参加者数 | 備考 |
|------|---------------|------|------|
| 5/24 | 地震及び火災を想定した訓練 | 83名 | |
| 11/1 | 土砂災害等を想定した訓練 | 81名 | 夜間想定 |

(2) ボランティア等の活動状況(敬称略)

新型コロナウイルス感染症が5類に移行となった5月からは、施設が感染症対応を行って

いる時以外は、コロナ禍以前のボランティアの受入を行い、利用者のサービス満足度の向上に努めました。

| 団体・個人名 | 活動内容 | 備考 |
|-----------------------|------------|---|
| 協美会 | 生け花の講師 | 4、5、6、9、11、12、3月 |
| 西本願寺ビハーラ | 彼岸法要の読経、講話 | 9/22、3/18 |
| 傾聴ボランティア “この指とまれ！” | 利用者への傾聴 | 6/12、6/26、8/28、9/11、9/25、 11/13、12/11、1/22、3/11、3/25 |

【3】 特別養護老人ホーム大洞岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100305号

【概要】

在宅介護を続ける介護者の介護負担軽減を主目的とした事業であり、利用者の要介護状態の低下防止と地域の期待や利用ニーズに応えるために、利用者及び介護者が安心して利用できるサービスの提供に努めました。

感染予防対策については、入所前日に体調確認を丁寧に行うことや入所時の抗原検査(岐阜市主催)を行い、感染症の持ち込み防止に努めました。しかし散発的に利用者のコロナ及びインフルエンザの感染があり、入所調整や感染対応を行いました。

利用状況実績(過去5年間)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 利用者数 | 556 | 452 | 524 | 372 | 298 |
| 平均要介護度 | 2.75 | 3.30 | 3.30 | 3.00 | 3.1 |
| 利用率% | 91.7 | 90.6 | 70.5 | 69.1 | 64.7 |

1 重点目標に対する取り組み

(1)「地域の居宅介護支援事業所や近隣の医療機関のみならず、関市や各務原市などの新たな居宅支援事業所等への継続的な空所情報の発信を行い新規の利用者を獲得することで利用率 80%をめざします。」

・居宅介護支援事業所等へ空所情報を発信し新規利用者は45名ありましたが、度重なる感染症の発生やスタッフ不足から受け入れを見合わせることもあり、年間 64.7%の利用率となりました。

(2)「自宅等から感染症の持ち込みリスクが高い事業であることから、慎重な入退所管理と体調管理を行い感染症予防に努めます。」

・入所時ごとに新型コロナウイルス感染症の抗原検査(岐阜市主催)を行いました。入所後にも1日2回の検温や体調管理を行い、感染症予防に努めました。

(3)「利用者及び家族の生活に対する意向を尊重し、住み慣れた地域で在宅生活を継続できるような支援や在宅生活が不安な方の長期利用の受入れなど、多種多様な個々のニーズに合わせた生活支援を行います。」

- ・病院から自宅に戻ることが困難で施設入所を前提とした長期の利用者が15名ありました。
また、定期利用から徐々に利用日数が増えるなどのニーズに柔軟に対応しました。
- ・特養入所まで安心して待機し、長期利用から併設特養へ入所した方は12名でした。
- ・緊急利用の受け入れを7件行い、個々のニーズに合わせた支援を行いました。

2 介護サービスの実施状況

各担当ケアマネジャーのケアプランに沿って利用者個々のニーズに合わせた介護サービスを提供しました。

3 機能訓練の実施状況

利用者の状況やADLに合わせて、生活動線での歩行訓練や生活動作での手足の稼働を生活リハビリとして実施しました。

4 食事サービスの実施状況

併設の特別養護老人ホームと同じ献立やイベント食を提供しました。

5 健康管理について

利用中には1日2回の検温を行い、体調不良時は早めに家族や主治医と連携を図り、適切に医療に結びました。

介護者の状況に応じて、事業所で受診相談及び対応を行い、早期の医療連携により安心して利用できるよう努めました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るために併設の特別養護老人ホームと協働し委員会活動を実施しました。

【4】 老人デイサービスセンター大洞岐協苑事業(定員30名)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100792

【概要】

要介護状態等にある高齢者等に対し、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう、入浴・食事・個別の機能訓練・レクリエーションの提供を柱として、必要な日常生活上の生活相談及び介護サービスを行いました。

利用状況実績(過去5年間)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 利用者数(介護) | 732 | 646 | 524 | 495 | 501 |
| 利用者数(支援) | 218 | 204 | 194 | 199 | 161 |
| 1日平均利用者数 | 24.9 | 22.3 | 20.6 | 20.0 | 21.4 |

1 重点目標への取り組み

(1)「新規利用者獲得のために体験利用の充実を図るとともに登録者80名、利用率80%をめざします。」

- ・体験利用の前に、希望や思い等を聞き取り、希望に対し可能な限り対応できるよう努めま

した。

- ・年間の体験利用者数は14名(介護:10名、総合:4名)あり、全ての方と契約することができました。
- (2)「生活意欲を高めるサービスを提供し、在宅生活を継続できるよう身体機能の維持向上を目指して、自宅環境に合わせた個別リハビリを提供します。」
- ・送迎時や担当者会議等で家庭環境を確認し、自立支援に視点を置いたリハビリを提供しました。また、身体状況についてケアマネジャーと連携しました。
 - ・新たにオンラインレクを取り入れ、全国のデイと繋がりがながらの脳トレやリハビリの提供を行いました。
- (3)「職員個々の介護力・先を見据えた判断力・応用力向上に努め、デイサービス全体の質の向上に努めます。」
- ・苑内研修や外部研修はもちろんですが、月1回のスタッフ会議内でも、その月にあった事例をもとに話し合い、質の向上に努めました。

2 通所介護事業(介護保険事業)の実施状況

- ・居宅介護支援事業所ならびに地域包括支援センターとの連携のもと、定員の充足を図るよう努めました。
- ・身体機能低下に伴い、介助内容の変更・回数の調整等を行い、ご利用者様が快適に過ごせるよう努めました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業(通所介護相当サービス事業)の実施状況

- ・介護予防サービス・支援計画に沿った個別援助計画を作成し、適切なサービスを通所介護事業と同等の内容で提供しました。

4 基準緩和型デイサービス事業(事業対象者及び要支援を対象)

通所介護相当サービス事業の指定基準を緩和した(2時間を基準)事業で、令和4年9月に初めての指定更新を行いました。事業への相談はなく実績はありませんでした。

5 会議等の開催状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

| 会議名 | 開催回数 | 備考 |
|----------|------|----|
| デイサービス会議 | 12回 | |

6 その他

- ・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年2回の避難訓練を計画・実施しました。

| 実施日 | 内容 | 参加者数 | 備考 |
|------|---------------|------|------|
| 5/24 | 地震及び火災を想定した訓練 | 18名 | 夜間想定 |
| 11/1 | 地震及び火災を想定した訓練 | 22名 | |

【5】大洞岐協苑訪問介護事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170101139号

【概要】

要介護状態等となった高齢者が、住み慣れたまちでいつまでも暮らし続けるため、サービス提供責任者が作成する計画書に基づき、ヘルパーが自宅等へ訪問し、身体介護や生活援助等生活全般にわたる援助を実施しました。

利用状況実績(過去5年分)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----------|------|------|------|------|------|
| 利用者数(介護) | 462 | 468 | 470 | 432 | 419 |
| 利用者数(支援) | 532 | 543 | 531 | 520 | 483 |
| 1日平均利用者数 | 20.0 | 20.3 | 19.3 | 19.0 | 18.4 |

1 重点目標に対する取り組み

- (1)「地域包括支援センター・居宅介護支援事業所との連携を強化し、新規相談や計画変更について柔軟な対応を行い、活動時間の増加に努めます。」
 - ・利用者の様子や変化、訴え等を報告し、事業所として出来ること等を提案しながら、柔軟に対応しました。
- (2)「ヘルパー技術向上のため定期的に研修を実施し、より質の高いサービスを提供します」
 - ・感染症を含む高齢者の身体的特徴と観察の視点、緊急時の対応など年3回の研修を実施し、また事例検討による対応力向上に取り組みました。
- (3)「登録ヘルパーの獲得に努めるとともに、基準緩和型訪問介護サービスの導入により生活援助サービスを提供します。」
 - ・登録ヘルパー2名を採用することが出来ましたが、基準緩和型訪問サービスの希望はありませんでした。

2 訪問介護事業(介護保険事業)の実施状況

- ・居宅介護支援事業所の介護サービス計画に基づき、自立支援の視点を大切に援助しました。利用者の状況変化に合わせて、曜日の変更等柔軟な対応を行いました。
- ・年間を通じて新規契約は12件ありました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業(訪問介護相当サービス事業)の実施状況

- ・地域包括支援センターや居宅支援事業所の介護予防サービス支援計画書に基づき自立支援に努めました。
- ・年間を通じて新規契約は10件ありました。

4 基準緩和型訪問介護サービス事業の実施状況

利用者やケアマネジャーより、数件問い合わせがありましたが、サービスの実施には至りませんでした。

5 有償サービスの状況

介護保険サービスでは対応ができない病院付添いなどの要望について、年間25件、延

べ107件実施しました。

6 会議等の開催状況

(1) ヘルパー会議 年12回

免許証の確認、新規利用者情報の共有、変更事項、感染症予防について、困難事例検討、相談等、その他連絡事項などを周知し、間違いや事故防止に努めました。

(2) 研修

訪問介護員及び登録ヘルパーの資質の向上のため、年間計画に基づいて4回の研修を計画していましたが、感染予防のため文書による情報提供及び資料配布を行いました。

| 実施日 | 研修テーマ | 備考 |
|------|----------------|----------------|
| 5/16 | 緊急時の対応について | 参加 7名 |
| 8/12 | 介護記録の書き方 | 参加 7名 |
| 9/12 | 食中毒とノロウイルスについて | 参加 7名 |
| 1/16 | 事例検討会 | 感染予防のため中止 資料配布 |

その他、苑内研修及びスキルアップ研修や勉強会に参加しました。

【6】グループホーム大洞岐協苑事業(定員9人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170102483号

【概要】

認知症の状態にある要介護者に対し、家庭的な環境と地域住民との交流の下で、入浴、排泄、食事、その他の日常生活上の世話及び機能訓練を行う事により、利用者がその有する能力に応じ自立した生活を営むことができるよう援助しました。

入退所が少なく、利用率100%の月が7カ月ありました。利用率は96.9%（R4：96.6%）と前年度を上回りました。

利用状況実績(過去5年分)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 新規入所者数 | 2 | 2 | 5 | 4 | 1 |
| 退所者数 | 2 | 3 | 4 | 4 | 1 |
| 平均要介護度 | 2.70 | 2.50 | 2.44 | 2.5 | 2.22 |
| 利用率(%) | 98.0 | 94.8 | 92.3 | 96.6 | 96.9 |

1 重点目標に対する取組み

(1)「利用者の主体性を活かし個別ケアの充実を図ります。」

・利用者の要望をお聞きし、また日々の様子から、状態に合わせたケアや個別計画を立て生活支援に努めました。

(2)「共同生活が維持できるよう、支援していきます。」

・より家庭に近い感覚で居心地よく共同生活が出来るよう、利用者同士の交流を多く取り入れながら、役割と居場所作りを行いました。

(3)「感染予防対策に努め、家族 主治医との連携を密にして利用者の健康維持を図ります。」

- ・基本的な感染防止対策の徹底を継続し、コロナウイルス感染はありませんでした。
- ・受診時には病院・入所者家族に体調変化などを書面で報告し、主治医から直接今後の対応についての返信を頂き、病状の変化への対応や細やかなケアに繋がりました。

2 介護計画の作成とサービスの提供について

個々の入所者の達成感や残存機能の維持をはかれる介護計画の作成に努めました。また、日常生活の充実の為、レクリエーションを日替わりで行い、軽作業などの日課を通して入所者それぞれの個性・得意な事を活かせる機会をつくりました。

3 家族とのかかわりについて

- ・月次報告書を発行し書面にて毎月報告を行いました。
- ・体調変化やコロナウイルス流行下の状況など、LINEや電話で細目に連絡し、信頼関係の構築に努めました。

4 地域との交流について

- ・地域に求められる事業運営のため、年6回2か月ごとに運営推進会議を開催しました。
- ・ホットカフェに3回参加し、地域住民との交流を図りました。地域に求められる事業運営に努めました。

5 外部評価の実施状況

令和5年10月に認定評価機関である「株式会社 中部評価センター」による外部評価を受けました。

6 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議等を開催しました。

| 会議名 | 開催回数 | 備考 |
|-----------|------|---------|
| グループホーム会議 | 12回 | 6回は書面会議 |
| 運営推進会議 | 6回 | |

7 その他

- ・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年3回の避難訓練を計画・実施しました。

| 実施日 | 内容 | 参加者数 | 備考 |
|-------|----------------|------|-----------|
| 5/24 | 地震による火災及び水害を想定 | 11名 | 夜間想定 |
| 11/18 | 地震による火災及び水害を想定 | 18名 | 芥見消防団5名参加 |

【7】在宅介護支援センター大洞岐協苑事業

介護保険指定 岐阜市指定 第2170100123号

【概要】

要介護等の認定を受けた高齢者等が住み慣れた地域で生活するために、利用者の希望や

家族の意向を踏まえた居宅サービス計画を作成し、適切な介護サービスの提供が図れるよう努めました。

利用状況実績(過去5年分)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|
| プラン数(介護) | 1,104 | 1,104 | 1,084 | 1,141 | 1,053 |
| プラン数(予防) | 217 | 231 | 212 | 547 | 474 |
| 月あたり件数 | 110.0 | 111.3 | 108.0 | 140.4 | 127.3 |

1 重点目標に対する取り組み

- (1)「地域共生社会に向けて、多種多様なニーズに対応できるよう地域包括支援センターをはじめとする多職種との連携・協働を行います。特にターミナル期を自宅で過ごされる方が増えたため、病院や訪問看護等との連携を密にし、利用率前年比106%をめざします。」
- ・医療との連携を密に行いながら、積極的にターミナル期の利用者様の受け入れを行いました。
 - ・地域包括支援センターや他の居宅介護支援事業所と連携し、地域の会議等の運営にも参加しました。
- (2)「常に利用者の自立支援を考え、その立場に立った質の高いケアマネジメントを提供できるように自己研鑽し、各々が支援者としてのスキルアップに努めます。」
- ・外部での研修会に積極的に参加しました。また、事業所内での振り返り定期的実施しスキルアップに努めました。

2 居宅介護支援事業(介護保険事業)の実施状況

- ・利用者及びその家族の希望を踏まえた居宅サービス計画の作成に努めました。
- ・ケアプラン件数は、月当たり88件でした。また、新規契約は年間 21 件ありました。

3 介護予防支援事業(地域包括支援センターからの受託事業)の状況

地域包括支援センターから新規の委託依頼が 29 件ありました。

4 介護認定調査(岐阜市及びその他の市町村からの受託事業)の実施状況

介護保険の更新認定及び区分変更に必要な訪問調査を受託し、訪問調査後すみやかに調査票を作成しました。新型コロナウイルス感染症による特例措置である合算対応が無くなり調査依頼件数が急増したため年間 304 件の実績となりました。

5 介護支援専門員実務研修実習生の受け入れについて

令和5年度は岐阜県指定研修機関から要請がなく、介護支援専門員実務研修見学受講者の受け入れはありませんでした。

6 地域とのかかわりについて

地域で行われる「いきいきサロン」に定期的に参加し相談を受け付けました。また12月にはハンドベルの演奏を行いました。

7 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

- (1) 居宅会議 週1回 利用者の情報や留意事項の共有及び困難ケースについて
 (2) 内部研修 5回

| 実施日 | 研修テーマ | 参加者 |
|-------|------------------------------|-----|
| 7/1 | 予防プランのたて方について | 3名 |
| 8/17 | この地域の子供支援の取り組みの紹介と行政等の連携について | 3名 |
| 11/16 | 訪問看護ステーションとの交流会について | 4名 |
| 3/7 | 生活困窮者のペット問題の解決に向けて | 4名 |
| 3/21 | 事例検討会について | 4名 |

その他、法人内で実施する苑内研修及びスキルアップ研修や勉強会に参加しました。

【8】 ケアハウス大洞岐協苑事業(定員20人)

【概要】

身体機能の低下等が認められ、又は高齢のため独立して生活するには不安が認められる高齢者等に対し、栄養バランスのとれた食事の提供、生活相談の充実、大浴場等施設環境の整備など安心して生活を送ることが出来る住環境を整えました。

特に感染予防対策に注力し、入居者の体調確認を徹底し、外出自粛や家族・友人との面会及び食事を共にする機会への参加自粛について呼びかけました。その効果もあり、新型コロナウイルスへの感染は発生しませんでした。

利用状況実績(過去5年分)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|-----|------|------|------|------|
| 新規入所者数 | 4 | 6 | 4 | 4 | 6 |
| 退所者数 | 4 | 6 | 4 | 5 | 7 |
| 入居率(%) | 100 | 97.5 | 98.3 | 97.9 | 89.9 |

1 重点目標に対する取り組み

- (1)「自立を支え、安心した生活を継続出来るよう関係機関との連携を深めます。」
- ・毎月開催する入居者懇談会にて、栄養士やケアマネジャー等から、健康に暮らすためのヒントや介護保険の利用について専門的な話を聞く機会を設けました。
 - ・入居者の担当ケアマネジャーと連絡を密にとり、情報の共有を行いました。
- (2)「利用者同士の交流の場を作り楽しいシニアライフを提供します。」
- ・入居者懇談会にて意見交換の場を設けました。
 - ・各階の談話コーナー、2階の談話室の環境整備を行い、季節感のある過ごしやすい空間を提供しました。

2 サービスの提供について

- ・新型コロナウイルス予防接種の6、7回目を、各自かかりつけ医での接種をお願いしました。また、流行期においては職員を対象とした1週間に2回の抗原検査(岐阜市主催)を実施し、ウイルスの持ち込み防止に努めました。

・入居者、家族からの相談事に関しては親身に対応し、困難な案件は他部所や他事業所の協力を得て、解決に努めました。

3 生活の援助について

・緊急時及び一時的に必要な場合の適切な支援を行いました。

4 会議等の実施状況

入居者同士の交流の場及び施設との意見交換の場として懇談会を開催しました。

| 会議名 | 開催回数 | 備考 |
|--------|------|----------|
| 入居者懇談会 | 12回 | 7月のみ書面会議 |

5 その他

・非常災害対策

火災、地震等の非常災害に備え、年2回の避難訓練を計画・実施しました。

| 実施日 | 内容 | 参加者数 | 備考 |
|------|----------------|------|------|
| 5/24 | 地震による火災及び水害を想定 | 20名 | 夜間想定 |
| 11/1 | 地震による火災及び水害を想定 | 11名 | |

【9】 地域密着型特別養護老人ホーム第2大洞岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190104253号

【概要】

入所者の意向を尊重し、心身ともに穏やかな生活を送ることができるようサービスの提供に努めました。また、コロナウイルス等の感染対策を継続し、持ち込み防止に努め入所者のコロナ・インフルエンザの陽性者はありませんでした。

新規入所者は3名、長期入院等による退所者は7名でした。入院者が多くあったことも影響し、利用率は年間89.1%と目標95%を達成することはできませんでした。

利用状況実績(過去3年間)

| 項目 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|
| 新規入所者数 | 35 | 8 | 3 |
| 退所者数 | 8 | 7 | 7 |
| 平均要介護度 | 3.67 | 3.64 | 3.75 |
| 利用率(%) | 76.3 | 93.1 | 89.1 |

1 重点目標に対する取組み

(1)「一人ひとりの暮らしの継続を大切に、個別ケアの提供と余暇活動の充実に努めます。」

・入所者の意向を尊重したケアの提供に努めました。また、ミニドライブや買い物ツアーなど外出行事にも取り組みました。

(2)「多様な介護ニーズに柔軟に対応し、施設全体のケアの標準化を図ります。」

・ケース記録への入力 of 充実や申し送りノートの活用により情報共有に努め、常に情報を更新しケアにあたりました。

- ・加算体制を変更し、日常生活継続支援加算 (R5.4～)、栄養マネジメント強化加算 (R5.8～)を算定しました。

(3) 「感染予防対策と健康管理の徹底により、年間利用率 95%を達成します。」

- ・年間を通じて職員は予防的抗原検査を週 2 回実施し、ウイルスの持ち込み防止に努めました。
- ・年間の延べ17人が入院し、入院日数は 831 日と前年度の 2 倍でした。

2 施設サービス計画について

- ・「どのように暮らしたいか」を理解し、自律的な日常生活の実現のため、多職種で話し合い入所者一人ひとり沿ったケアプランを作成しました。
- ・カンファレンス開催回数は 12 回、延べ 53 名のケアプランを更新しました。

3 介護サービスの実施状況

個別のケアプランに基づき、入居者自身が有する能力に応じたケアを実施しました。また、感染対策に留意し季節にちなんだ行事及び余暇活動の充実に努めました。

4 機能訓練の実施状況

入居者の健康状態及び運動能力を把握し、機能及び健康の維持増進のため、多職種が連携して個別機能訓練計画を作成し、機能訓練を実施しました。

5 食事サービスの実施状況

- ・入所者の栄養状態等を把握し、管理栄養士が中心となり、多職種が連携して栄養ケア計画を作成しました。
- ・季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食及びバイキング食を 6 回 (4 月・6 月・7 月・10 月・11 月・3 月) 提供しました。

6 健康管理の実施状況

- ・入所者の既往歴や現疾病の状況を十分に把握し、常に体調の変化に留意し、主治医との連携を密に必要な医療処置、病気の予防など健康管理に努めました。
- ・新型コロナウイルスワクチン(6月・11月)、インフルエンザワクチン(11月)の予防接種を実施しました。

7 看取り介護体制の確立について

看取り介護についての研修会に 9 名が参加し準備を進めましたが、令和 5 年度中に「看取り介護指針」の整備は行えませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議

- ・事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議を開催しました。

| 会議・委員会 | 回数 | 備考 |
|------------|-----|---------|
| ユニットリーダー会議 | 12回 | 毎月 |
| 安全対策部門会議 | 2回 | 9 月・3 月 |

| | | |
|--------------|-----|-------------|
| 給食委員会(大洞と合同) | 10回 | 5・7月は書面 |
| 事故防止委員会 | 6回 | 偶数月 |
| 感染症予防委員会 | 6回 | |
| 身体拘束防止委員会 | 5回 | 5・7・9・12・3月 |
| 虐待防止委員会 | 5回 | |

(2) 研修の開催

- ・介護職員等の資質の向上を図るため、必要な研修に参加しました。
- ・外部研修へ4名を派遣しました。
 - ユニットリーダー実地研修 2名
 - ユニットケアリーダー研修 1名
 - 老施協全国大会(岐阜大会)1名

9 運営推進会議の開催状況

地域に開かれた施設としてサービスの質を確保することを目的とした運営推進会議を6回(2カ月に1回)開催しました。

10 岐阜市高齢者等緊急一時保護について

岐阜市が実施する事業を受託し、受け入れ体制を確保しましたが、相談実績及び受け入れ実績はありませんでした。

11 地域交流カフェの開催状況

新型コロナウイルス感染症への予防対策もあり、入居者と地域住民との交流を目的とした地域交流カフェを定期的には開催することはできませんでした。

12 その他

(1) 非常災害対策について

入所者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。2回目の訓練には、地域消防団から5名見学参加がありました。また、BCP(事業継続計画)の整備に努めました。

| 実施日 | 訓練想定 | 参加者(うち職員) | 備考 |
|-------|----------|-----------|-----------|
| 6/29 | 夜間、地震・火災 | 39名(11名) | |
| 11/18 | 昼間、土砂・火災 | 31名(7名) | 芥見消防団5名参加 |

(2) ボランティア等の受入れ

| 団体・個人名 | 活動内容 | 備考 |
|-----------|------------|---------|
| レインボーズ | 認知症カフェ | 歌・演奏・踊り |
| アンサンブルブルー | クリスマスコンサート | 弦楽5重奏 |

(3) 地域交流室ポローニアの利用状況

4団体より、延べ13回の利用がありました。

【10】岐阜市地域包括支援センター東部事業

【概要】

地域の高齢者が、住み慣れた街で安心して生活が送れるよう、地域・医療・福祉をつなぐ相

談窓口として多機関と連携し、さまざまな相談に応じてまいりました。

多問題を抱えた相談が多くなり、多職種とのネットワークを図りながら地域包括ケアシステムの構築に向けて、様々な機関と連携し地域課題への取り組みを行いました。

1 重点目標に対する取り組み

- (1) 「困難事例など、事例の振り返りや情報共有を積極的に行い、地域包括全体で対応できるようにチームワーク力を高めていきます。」
 - ・多問題を抱えた相談に3職種で情報を共有し、支援困難ケースについて協議を重ね、地域課題抽出および支援内容の検討を行いました。
- (2) 「時代のニーズに合わせたオンライン会議などを取り入れ、地域や関係機関との途切れない関係づくりに努めます。」
 - ・関係機関によるフレイル予防専門職会議や3公民館をオンラインで繋いだフレイル予防教室を2回実施しました。参加者が身近な公民館に集い、一度に多くの方に参加してもらうことができました。
- (3) 「高齢者のQOL向上と適切なケアマネジメント支援を目的に、重度化防止・自立支援型の地域ケア会議を行っていきます。」
 - ・介護支援専門員や介護、障がいのサービス事業所からの相談を受け、個別支援を行い多職種で連携し個別課題の解決を図りました。
 - ・圏域内の介護支援専門員からの事例提供により地域ケア会議を行い、医療面へのアセスメント不足に知識を深めるなど新たな気づきを得ることができました。

2 包括的支援事業等の実施状況

- (1) 地域包括支援センターの活動をより多くの方に知ってもらうための広報誌「のんびり通信」を年4回発行し、地域包括支援センター業務の紹介、認知症への取り組み、消費者被害の注意喚起、おいしく食べよう教室などについての情報を掲載しました。
- (2) 芥見東地域の3世代交流センター「みどりっこハウス」において、第1・3週の水曜日に福祉総合相談の窓口を開設し、介護保険サービスへの利用につなげました。
- (3) 各地域のふれあいいいきサロン15会場からの要請を受け、地域包括支援センターの周知活動をするのと同時に、認知症予防や消費者被害などの講話をして介護予防に努めました。
- (4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援業務において、地域の介護支援専門員への介護予防・自立支援の認識を深め、互いに協力し支え合う体制づくりのため、居宅連絡会、主任介護支援専門員連絡会を開催しました。また、地域ケア個別会議を実施することで地域課題を整理・分析し、解決に向けた取り組みを行いました。

3 介護予防・日常生活支援総合事業対象者の把握事業について

生活機能の低下がみられる高齢者に対して、岐阜市が主催する教室への参加を促し、ケアプランを作成、介護予防に努めました。また、要支援認定者や事業対象者においては、介護予防ケアマネジメント事業として自立に向けたケアプランの作成と委託ケアプランの確

認を行いました。

| | | | |
|------------|----------|----------|---------|
| おいしく食べよう教室 | まめかな訪問事業 | 運動機能向上事業 | 認知症予防事業 |
| 7件 | 0件 | 0件 | 0件 |

※まめかな訪問事業は、精神、うつ、閉じこもり、認知症などは、継続訪問や警察や精神科医療との連携のもとで支援をしているが、対象者の特性においてこの事業の実施は難しい。

4 多職種協働による地域包括支援ネットワークの構築について

フレイル予防の専門職会議を年6回開催(対面・オンライン)し、専門職間の連携を図り、フレイル予防教室の検討などを行い、次年度の取り組みの課題を見出しました。また、フレイル予防のチラシを年3回発行し、地域住民に周知しました。さらにフレイル予防教室を7月と2月に開催し、3つの公民館(芥見・芥見東・岩)をオンラインでつなぎ、多くの参加を得ることができました。

5 地域ケア会議の実施状況

関係機関や介護支援専門員、民生委員・児童委員、地域住民からの支援困難ケースを多職種で検討し、認知症に対する地域理解と見守り体制や介護者への家族支援などを目的とした地域ケア個別会議を4回行いました。

また、関係機関とのネットワーク構築に向けた地域ケア会議を4回行いました。

6 指定介護予防支援事業(介護保険指定 岐阜市指定第2100100185号)の実施状況

東部地域に事業所のある居宅支援事業所をはじめ、その他の地域にある居宅支援事業所と業務委託契約を締結し、予防ケアプラン業務を委託しています。委託事業所とは連携を密にし、利用者の自立につながる介護予防ケアプランの作成や居宅介護支援専門員の支援に努めました。

利用状況実績(過去5年)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|------------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 総プラン数 | 4,362 | 4,591 | 4,734 | 4,905 | 5,139 |
| プラン数(包括) | 1,917 | 2,301 | 2,594 | 2,133 | 1,697 |
| プラン数(委託) | 2,445 | 2,290 | 2,140 | 2,772 | 3,442 |
| 委託事業所数(延べ) | 235 | 290 | 302 | 323 | 343 |

7 岐阜市日常生活圏域協議体設置事業の実施状況

地域団体の代表者、介護、福祉関係者とともに、「高齢者の集まれる場所」の検討に年5回参加しました。

【11】岐阜市中ブロック機能強化型地域包括支援センター事業

【概要】

岐阜市内の中ブロックに属する地域包括支援センター中央北・中央西・白梅華・島城西・清流・長森・長森南・東部の8か所(以下、「センター」という。)において、各センターの機能を強化すべく後方支援をはじめ、総合調整や助言を行いました。また、必要な人が必要な支援に

つながることができるよう、地域ケア会議を充実させ、地域の関係団体等とのネットワーク構築につなげるなど、センターの活動を支援しました。

1 重点目標に対する取り組み

(1)「地域ケア個別会議について、事前協議の充実を図り、適切な機関の参加を得て目的に沿った進行が行えるよう支援します。会議後は、地域課題の整理、分析、課題解決に向けた取り組みが展開できるよう支援していきます。」

- ・地域ケア会議の事前協議に参加することで事例を把握し、目的に沿った進行が行えるよう参加者の選定や当日までの準備等支援しました。
- ・相談業務や地域ケア会議の検討内容から、「どのような環境要因が生活継続を阻害しているか」「どのような社会資源があったら生活が継続できるか」といった視点で、地域課題に意識が向けられるよう支援しました。
- ・地域ケア会議の回数を重ねることで見えてきた課題に対して、資質向上を図る研修会の開催を支援しました。

(2)「中ブロック管理者会を年3回以上行い、各包括の取組状況の確認や課題を共有し、業務の標準化、業務推進に向けた連携を促進していきます。」

- ・「中ブロック管理者会」を開催し、各センターの現状や課題を出し合いながら、管理者同士が相談できる関係づくりと情報共有の場を設けました。
- ・他ブロックの機能強化型ともセンターの活動を共有し、懸案事項について確認し、必要に応じて岐阜市と検討しました。
- ・センター職員として必要な知識や対応方法が学べるよう研修会を企画し開催しました。

(3)「困難事例の相談について、相談時だけでなく経過を聞き、包括の動きを確認し、新たな課題や状態の変化があれば対応を一緒に検討します。」

- ・困難事例に対しては機能強化からもその後の経過を聞き、課題への気づきを促し、今後想定されるリスクについて、対応を一緒に検討し包括の動きを確認しました。

2 困難事例に対する支援について

- ・相談対応、情報提供、ケース会議や地域ケア個別会議への参加及びアドバイスをを行いました。
- ・重層的支援室と協働し、多機関とのネットワーク構築を目的とした福祉相談窓口連携会議を開催しました(年12回)。
- ・対応力向上を目的とした地域包括支援センター職員研修を開催しました(年3回)。

3 地域ケア会議開催に向けた支援について

- ・地域ケア会議の打ち合わせへ参加し、目的の確認や参加者の選定、当日までの準備について支援しました。
- ・地域ケア会議から抽出された地域課題の把握及び課題を整理しました。

4 認知症サポーターステップアップ研修に対する支援について

- ・センターと協働し、認知症サポーターステップアップ研修を開催しました(年1回)。

・受講者がチームオレンジや認知症カフェへの活動につながるよう支援をしました。

5 認知症施策推進のための支援について

- ・情報交換、共有の場として中ブロック認知症地域支援推進員連絡会を開催しました(年6回)。
- ・認知症初期集中支援チームとの意見交換やチームオレンジの活動を共有するための会議を企画、開催しました(年3回)。
- ・「認知症カフェと介護者のつどい」の冊子の改訂、企業等へ認知症サポーター養成講座のアプローチ及び開催を支援しました(中ブロックの取り組み)。

6 広報及び周知啓発に対する支援について

- ・広報紙を確認し、加筆・修正等助言しました。
- ・ブロック内で広報紙の情報共有や周知活動の共有をしました。

7 各専門職への人材育成に関する支援について

専門職会議の開催を支援しました。

| 会議名 | 参加回数 |
|----------|------|
| 主任ケアマネ会 | 5回 |
| 社会福祉士会 | 7回 |
| 看護師・保健師会 | 5回 |

8 地域包括ケアシステムの構築、推進に関する支援について

連携向上のための会議を開催しました。

| 会議名 | 開催回数 |
|-----------------------------|------|
| 岐阜市高齢福祉課との打ち合わせ会 | 9回 |
| 中・北・南ブロック機能強化型地域包括支援センター連絡会 | 7回 |
| 中ブロック連絡会(管理者会) | 3回 |

【12】 介護付有料老人ホーム日野岐協苑事業(定員29人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2190100186号

【概要】

金華山と長良川が眼下に広がる景色の中、入居者には安心と安らぎのある家庭的な暮らしが提供できるよう日常生活の支援に努めました。また、入居者及び家族の意向を尊重したケアを実施し日々の介護はもとより機能訓練・医療連携体制・看取り介護などの要望に応えました。

利用状況実績(過去5年間)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|------|------|
| 新規入所者数 | 10 | 8 | 7 | 17 | 8 |
| 退所者数 | 6 | 8 | 12 | 12 | 10 |
| 平均要介護度 | 3.16 | 3.22 | 3.30 | 3.10 | 2.90 |
| 利用率% | 81.8 | 92.6 | 90.6 | 86.9 | 92.1 |

1 重点目標に対する取組み

- (1)「満床の状態を保つことができるよう、入居希望者や居宅事業所と連携を深めます。」
- ・新規入所者8名のうち7名が併設短期入所事業所からの入所でした。関わりのあった居宅介護支援事業所からの紹介により入所に繋がりました。
- (2)「感染症の再発防止に努め、継続して看取り介護を丁寧に行います。」
- ・年間を通じて職員は予防的抗原検査を週2回実施し、ウイルスの持ち込み防止に努めました。
 - ・令和5年度、当苑で看取り介護を行った方は4名でした。看取り後に職員とご家族に振り返りアンケートを実施しました。
- (3)「職員の職場定着率の向上のため、職員とのコミュニケーションを密にします。」
- ・介護リーダーをはじめ職員全体で仲間の様子を気にしながら、声を掛け合って支え合いました。

2 介護サービスの実施状況

施設サービス計画に基づき適切なサービスの提供を、ケアチェック表を用いて行いました。

3 機能訓練の実施状況

入所者の健康状態及び運動能力を把握し、機能及び健康の維持増進のため、多職種が連携して個別機能訓練計画を作成し、機能訓練を実施しました。

4 食事サービスの実施状況

季節の食材を生かした色彩豊かな献立を作成し、適温で必要な栄養所要量を満たしたバランスの良い食事を提供しました。また、イベント食及びバイキング食を7回提供しました。(5月・6月・7月・9月・12月・1月・2月)

5 看取り介護の実施状況

入所者及びご家族等の意向を尊重したケアを実施、また本人が安らげる生活の場を提供し、残された余命を平穏に過していただく看取り介護を4名に行いました。

6 健康管理の実施状況

日頃より体調の変化に留意し、主治医との連携を密に必要な医療処置、病気の予防など健康管理に努めました。

入所者の感染予防対策として、新型コロナウイルスワクチンとインフルエンザワクチンの予防接種を実施しました。

7 空床の短期利用について

有料老人ホームの短期利用への相談はありませんでした。

8 会議等の実施状況

(1) 会議及び委員会

事業運営の適正及び職員間の連携を図るため、次の会議と委員会を開催しました。

| 会議名 | 開催回数 | 備考 |
|-----|------|----|
|-----|------|----|

| | | |
|-------------|-----|---------|
| 介護職員会議 | 11回 | 毎月 |
| 給食委員会 | 12回 | 毎月第一木曜日 |
| リーダー会議 | 11回 | 毎月第四金曜日 |
| 行事委員会 | 11回 | 毎月第一火曜日 |
| 介護力向上委員会 | 11回 | 毎月第二火曜日 |
| 事故、感染、拘束委員会 | 11回 | 毎月第三火曜日 |
| 運営推進会議 | 6回 | 奇数月 |
| 入居者懇談会 | 2回 | 5月・11月 |

(2) 研修

職員の資質の向上を図るため、法人内の事業所と共同して苑内研修及びスキルアップ研修を計画し参加しました。

9 その他

(1) 非常災害対策

入所者の安全を図るため、避難救出訓練を年2回実施しました。また、BCP(事業継続計画)の整備に努めました。

| 実施日 | 内容 | 参加者数 | 備考 |
|-------|---------------|------|------|
| 6/27 | 地震及び火災を想定した訓練 | 40名 | 日中想定 |
| 11/28 | 地震及び火災を想定した訓練 | 41名 | 夜間想定 |

(2) ボランティア活動来苑者(順不同・敬称略)

| 団体・個人名 | 活動内容 | 備考 |
|------------|--------------|----------|
| 臼井先生 | 絵遊び、モノ作り | 入居者の知人の方 |
| あいばち | パチンコを使ったリハビリ | |
| FC ぎふキャラバン | スタッフによる体操や運動 | |

【13】 日野岐協苑短期入所生活介護事業(定員20人)

介護保険指定 岐阜市指定 第2170105074号

【概要】

多様なニーズに対応するため家族及び居宅介護支援事業所と連携を深め、利用者の在宅生活の維持に貢献しました。安全かつ快適に施設を利用していただくために利用者本位の生活づくりを目指し、施設において日常生活上の世話及び機能訓練を行うことにより、高齢者の心身の機能の維持並びにその家族の身体的及び精神的負担の軽減に努めました。

利用状況実績(過去5年間)

| 項目 | R1 | R2 | R3 | R4 | R5 |
|--------|------|------|------|------|-----|
| 利用者数 | 514 | 511 | 463 | 510 | 519 |
| 平均要介護度 | 2.63 | 2.68 | 3.10 | 3.10 | 3.0 |

| | | | | | |
|------|------|------|------|------|------|
| 利用率% | 81.8 | 88.3 | 81.8 | 83.1 | 75.7 |
|------|------|------|------|------|------|

1 重点目標に対する取組み

(1)「ケアを熟知した職員を多く育成し、人員の安定化を図ります。」

- ・短期入所職員の退職はなく、安定した職員体制にてサービスが提供できました。

(2)「年間平均利用率 88 パーセントを目指します。」

- ・入所前に抗原検査を実施するなどウイルスの持ち込み防止に努めましたが、コロナウイルス感染症の影響もあり 75.7%と、目標達成には至りませんでした。

2 介護サービスの実施状況

- ・個別の居宅サービス計画に基づき適切なサービスの提供に努めました。
- ・状況に応じて緊急時の受入れにも対応しました。

3 機能訓練の実施状況

生活リハビリとして短距離歩行の付き添いや苑外を散歩する機会を増やしました。

4 食事サービスの実施状況

併設の有料老人ホームと同じ献立やイベント食を楽しみました。手作りおやつの日も一緒に行いました。

5 健康管理について

感染予防対策に取り組み、入所前の検温や体調確認の徹底に努め、必要に応じケアマネジャー、主治医又は嘱託医との連携を図るなど健康管理に注力しました。

6 生活相談について

生活相談員をはじめ職員が日常生活に関する事等の相談に対応し、生活課題の解決に努めました。

7 送迎サービスについて

岐阜市以外の地域からの利用や希望に沿った送迎時間を可能な限り対応しました。

8 余暇支援サービスについて

年間を通して併設の有料老人ホームと共同し行事やサークルに参加しました。短期入所フロア独自の活動も多く実施しました。

9 会議等の実施状況

事業運営の適正及び職員間の連携を図る為に併設の有料老人ホームと共同し委員会活動を実施しました。